

おきなわ大すきになあれ

豊見城市立 豊見城小学校

2年生 島袋 莉安

「おきなわにきて、よかったなあとおもえることってなにかな。」

お母さんの台わん人の友だちが、今年の8月におきなわにやってきます。名前は、エミで、台わんで日本語の先生をしています。

わたしがお母さんのおなかの中にいるとき、お母さんは、エミのおうちにあそびにいったそうです。そのときは、ちょうどお正月で、エミはおいしいものをいっぱいたべさせてくれたり、りあんがぶじに生まれるように、お寺につれていってくれたり、台わんの友だちといっぱい楽しいことをけい画してくれたそうです。わたしはエミがいい人だとお母さんのほなしをきいてわかったので、

「こんどはりあんのぼんだ。」

とおもいました。わたしは、どこにつれていこうかいろいろかんがえました。

「すいぞくかんかな。それとも、うみかな。それともサーターアンダギーをいっしょにつくって、いっしょにたべようかな。」

でも何日かんがえてもいいところほうかびません。そのときお母さんがいいました。

「りあん、エミはばしょではなくて友だちをいっばいつくって、またおきなわにきて友だちと楽しみたいみたいよ。」

じつは、エミがおきなわにくるのは、2かい目です。一かい目は、りあんが生まれて二か月ぐらいのときでした。友だちだから、なんどもきてくれるのだとおもいます。

いま、おきなわには、たいわん人もほかの国の人ともいっばいきています。うみもきれいだし、たべものもおいしいけど、一ぼんだいじなことは、友だちになって、みんなみんな、なかよしになることです。そしたら、みんなみんな、なんかいでもおきなわにきてくれるとおもいます。だから、りあんはおきなわにきてくれる人とじぶんから、友だちになって、みんなみんな、なかよしの友だちになりたいです。

エミはたいわんのラジオばんぐみでも日本語をおしえているそうなので、おきなわのことをしょうかいしてほしいです。エミがおきなわにきたら、友だちになって、おきなわのいいところをおしえたいな。

友だちは友だちをよんで、またほかの友だちをよぶよ。

おきなわ大すきになあれ。